

淡路島南部で注目される蛾 (I)

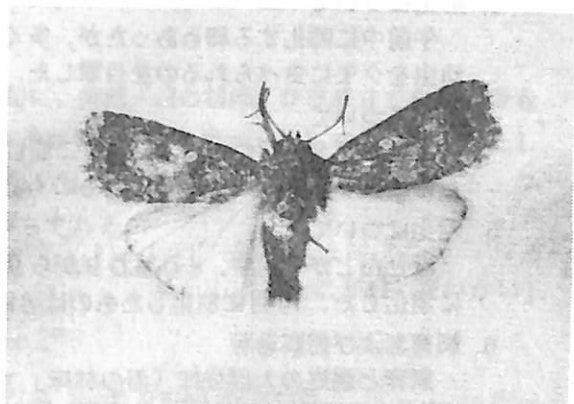
藤平 明³

1. マスイカバナミシヤク *Eupithecia masui* Inoue
Nov.19.1990 lex Oct.29.1991 lex (Ama) [灯]
香川県の石清尾山と象頭山、鳥取市で10月中旬から11月上旬に採集されるほか、産地はわかっていないとされている。
2. マイコトラガ *Maikona jezoensis* Matsumura
Mar.25.1985 lex Mar.26.1985 lex (Ama) [灯]
北海道中南部、東北地方から近畿地方まで主として日本海側と内陸部に産するが、伊豆大島・伊豆半島・対馬でも記録されている。四国では徳島県に産する。
翌1986年にもかなりの発生を見たが、それ以後は殆どみかけない。
3. ホソバソトグロノメイガ *Analthes* sp.
Aug.17.1991 lex (Ama) [灯]
従来の記録は、東京・埼玉のみであったが、井上氏¹⁾からの私信によると最近大阪府箕面市・兵庫県柏原から記録が報告されているそうである。
4. シンジュキノカワガ *Elyma narcissus* (Cramer)
Oct.30.1991 lex (Ama) [灯]
文献上の最古の記録は1909年の熊本市での発生。北海道を始め、東日本各地で散発的な採集記録があり、近畿、中国、四国地方の諸県でも同様である。最も頻度の高いのは福岡県を中心とする九州北部。
幼虫の食樹はシンジュなど *Ailanthus* 属の植物 (ニガキ科) に限定されると思われる。この属の植物は日本に自生品はなく、今日各地で野生化しているシンジュは1875年頃移入されたものとされているので、この蛾も二次的に日本に入ったものと推定される。
5. ウスベニオオノメイガ *Tiresiphita prunipennis* Butler
Aug.21.1987 (Ama) [灯]
北海道、本州、対馬、屋久島、朝鮮に分布するまれな種。
6. オオトウウスグロクチバ *Avitta fasciosa* Moore
Nov.19.1990 (Ama) [灯]
紀伊半島大塔山系、四国各地で発見され、関東地方では、1987年東京都の奥多摩、大垂水峠で採集されている。和名は初期産地の「大塔山」に因む。
7. シロモンコノメイガ *Nacoleia chrysorycta* Meyrick
Aug.23.1990 (Okawa) [Sw]
国内では非常に少ない種。近辺では奈良県吉野の記録がある。
8. ヒカゲヒメハマキ *Hikagehamakia albiguttata* Oku
May.31.1991 (Ama) [灯]
日本固有種。北海道、本州、対馬、屋久島から分布が確認されており、四国、九州にもいることが予想されていた。
9. クシナシスジキリヨトウ *Spodoptera cilium* Guénee
Oct.25.1994 (Okawa) [灯]

3: 〒656-07 三原郡南淡町阿万上町 794

¹⁾井上 寛氏 大妻女子大学生物学研究室

今まで本土域で採集されたことはなく、主として沖縄本島以南に記録あり。杉繁郎氏に同定していただいた。



南淡町大川産クシナシスジキリヨトウ

(ふじひら あきら)

クロコノマチヨウについて

谷川大海⁴

筆者は1994年7月28日より10月28日までクロコノマチヨウの生態の一部を観察(飼育も含む)したので、ここに報告する。

1. 飼育について

①一回目の飼育

7月28日に捕らえた母蝶から(7月28日から31日の4日間で)108卵を得、107卵が孵化、58頭が羽化した(うち♂26頭、♀32頭)。型は夏型が22頭、秋型が30頭、中間型が6頭であった。中間型とは夏型から秋型への移行型と思われるもので夏型と秋型の両方の特徴を持っている。しかし越冬母蝶からの第一化の飼育がまだで、第一化夏型との比較が出来ていない。従って中間型と断定するのは今後の課題とする。羽化した成虫58頭はすべてマーキングして「沼の林床」に放蝶した。

②二回目の飼育

「沼の林床」で産卵を目撃して得た卵、及びすでに産みつけられていた卵からの飼育。「沼の林床」で袋がけ飼育をした。産卵日は卵や齢数から推測したものを含めて、8月22日から10月2日まで数日おきであった。全部で24頭羽化(すべて秋型)、そのうち9頭をマーキングして放蝶、他は標本にした。

2. 産卵行動について

産卵を目撃したのは三回(一回目は袋がけ産卵の時、二回目はマーキングして放蝶した母蝶の産卵、三回目は自然状態での産卵)。袋がけ産卵で一度だけ早朝(8時半)に産卵したことがあった。しかし、他はすべて夕刻(5時~6時)であった。また自然状態ですでに産みつけられていた卵も、卵の色などから推測して夕刻に産みつけられたようである。食草はジュズダマ、ケイヌビエ、ヨシの三種(去年はススキでも見られた)。いずれも林床内で育った若々しい、緑色の、柔らかい葉に産卵。まず葉表に止まり、すぐくると葉裏に逆さになり産卵。卵数は1卵から2~10卵の群卵が見られた。

4: 〒656 洲本市大野 1018-2